

4月号表紙の顔

丹羽由香梨

JPBA WOMEN'S ALL★STAR GAME2021 優勝者

勝因はポジションマッチでの“ギャンブル”にあり!!

予選ラウンド最後のポジションマッチ(PM)。トップ独走の姫路と対戦した丹羽は173:236のスコアで完敗を喫し、2位→4位へと順位を下げた。

大方のファンはこの結果だけを鵜呑みにして「優勝決定戦でも姫路の優位は動かない」と、女王のV26達成を確信したことだろう。しかし、チャレンジャーの丹羽は「勝ってもトップシードにはなれない」PMを、TV決勝に向けての練習ゲームと考えて臨んでいた。

「ポジションマッチで入ったのはTV決勝のレーン。前日投げた感じと明らかに違っていたので、ゲーム中にポケットを見つめることができたらいいな、と探り探り投げていました」

ローゲームを叩けば6位以下に落ちてしまう可能性もあるリスクなギャンブルだったが、うまくいくときは何もかもがうまくいくものだ。

「ポジションマッチが終わって少し時間が空いたけれど、最後に投げたボール(ハンマー

ウェブM.B.)がよかったので『もうこれでいこう』と。あとはもう無理に押し込まず、少しオイルのあるところから投げようと思って投げたら、それが当たりました(笑)。けっこう手前を飛ばせるタイプなので、早いレーンよりは遅いレーンのほうが投げやすいんです」

PMからひとり同じレーンで投げ続けたことで、刻々と変化するコンディションにも迷わず対応することができた。5位決定戦から4タテを決めての初Vは、ある意味必然の結果だったのかもしれない。

「これまではテレビに残っても、力が入り過ぎて勝てませんでした。『何で1ゲームマッチに勝てないんだろう?』と、師匠の青木彰彦プロ(16期)やセンター(アソビックスかにえ)の木村紀夫プロ(23期)と話していたら『勢いが足りないんだ』と。『1ゲームマッチであれこれ考えている余裕はないから、決め打ちで、自分が信じたところに投げなさい』と言われたのですが、きょうはそれができま



にわゆかり / 1982年7月14日生まれ、愛知県出身。163㌢、右投げ。2002年プロ入り(35期/ライセンスNo.364)。優勝1回。アソビックス所属。20/21年度ポイントランキング4位(女子プロオールスターゲーム終了現在)



▲表彰式後のフォトセッションに仲よし同期生の名和秋が祝福の“乱入”。ツアーでは常に行動をともにしているという名和は「これまで何度もあった優勝のチャンスを逃し続けてきたのを見てきたから、自分のことのようにうれしい」と、こちらも涙顔だった

した(笑)」

自宅には、丹羽が試合に出かけるたびに「1位を取ってきてね」と笑顔で送り出してくれる、今年小学2年生になる愛娘と3歳の愛息がいる。まだ子育てが大変な時期だが、ご主人の理解と、双方のご両親の協力を得てプロ活動ができていくという。

「それは本当にありがたいこと。だから今回優勝することができてよかったけれど、1回の優勝で満足していたらダメですよ。以前、だれかに『3勝

してようやく実力が認められる世界』と言われた記憶があるので、次また勝てるように頑張ります」

プロ20年目の初Vは、時本美津子(7期)の16年をはるかに上回る遅咲きの記録だが、時本はそこから35の勝利を積み上げ、現在もレギュラーツアーで元気に投げ続けている。

遅咲きの花は長く咲き誇る。丹羽が今後イッキに勝ち星を量産していく可能性も大いにあるだろう。

FOCUS UP

「青空の下でボウリングを!」久保田彩花がクラウドファンディングに託す“夢”と“想い”



▲うめきた広場に立つ久保田。コロナ禍の状況次第だが、クラウドファンディングが目標額に達した場合、イベントは今秋開催の予定だ(©ABCテレビ)

ABCテレビ(関西ローカル)で今年1月にスタートした「Re:スポーツ」(毎週月曜深夜放送)は、関西在住のアスリートが心に抱く夢を紹介し、その夢の実現をクラウドファンディングで応援しようという主旨のアスリート応援番組だ。3月29日の放送回にはボウリング界から久保田彩花(48期)が出演。何事にも堅実な彼女らしからぬ(?)大きな夢を語り、「青空の下、グランフロント大阪でボウリング!」というプロジェクト名で視聴者の支援を募った。

☆
グランフロント大阪は2013

年、西日本最大のターミナルである大阪・梅田の駅前(北側)に誕生した複合商業施設。久保田の夢は、同施設の南館とJR大阪駅北口に挟まれた「うめきた広場」に特設レーンを設置し、行き交う人々にボウリングをしてみたいというものだ。

「以前、PBAの選手が屋外に作られた観客席もある特設レーンでボウリングをしている光景を映像で見たことがあって、それがすごく衝撃的でした。同じことが日本でもできないかなと考えていて、番組出演のお話をいただいたこの機会に実現できたら…と思ったんです」

その“夢”の裏には「自分と同世代の若者にボウリングを知ってほしい」という“想い”もある。

「通りすがりの若い人が『あっ、ボウリングやってる』と足を止めて見てくれて、それがボウリングを始めるきっかけになればいいな、と。ボウリング発展の火種になればうれしいですね」

ちなみに、クラウドファンディングの目標金額は400万円に設定され、番組の放送直後にスタート。4月3日現在、支援総額は113万9500円(支援者63人)に達している。

「新しい自分」を見せたい

圧倒的な強さを誇る先輩・姫路麗の陰に隠れてしまっているが、近年の公式戦における久保田の実績もトップクラス、関西在住の女子プロのなかでは姫路に次ぐものだ。

昨年も、8戦して予選落ちは

関西オープンの1度だけ(27位)。7回の入賞中、ひとケタ順位が4回、TV決勝にも2度進出を果たしたが、意外にも当の本人は「伸び悩んでしまった一年」という。

「コロナ禍で、大会が直前に中止や延期になることが多くて、モチベーションを保つのが難しかったです。そんななかでも、姫路プロや坂本(かや)プロが何度も優勝しているのを目の当たりにしていますから。その点、私は安定し過ぎているというか、ボウリングでもプライベートでも、どうしても“安全地帯”を選んで行っちゃうんですよ(苦笑)」

だから、今回のクラウドファンディングをきっかけに「挑戦できる自分」を手に入れたいとも考えている。

「番組を見て、初めて自分のことを知った人が一人でも多く

いて、その人たちがクラウドファンディングを応援してくれたら、それが励みになって、新しいことに挑戦するパワーに変わるかも(笑)。とにかく今年は“新しい自分”を見せられたいいなと思っています」



▲女子プロオールスターゲーム出場時の久保田。同大会では前年の17位から7位に順位を上げたものの、予選最終G前まではTV決勝進出圏内にいただけに、本人的には悔しい結果だろう

久保田プロのクラウドファンディング応援サイトへは右のQRコードから飛ぶことができます。また「Re:スポーツ」の出演回は「TVer」「GYAO!」で視聴可能なほか、5月3日(祝)18時15分~30分、CSスポーツチャンネル「スカイA」でも放送されます(再放送も多数あり)。



くぼたあやか / 1996年1月27日生まれ、奈良県出身。159㌢、右投げ。2015年プロ入り(48期/ライセンスNo.526)。公式戦優勝3回。フリー。20/21年度ポイントランキング6位(女子プロオールスターゲーム終了現在)